

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

節章句秘伝之抄

節章句秘傳文抄

十

五音之秘法秘傳之事

一五音と云、祝言出主總慕衰傷和曲

は五ツで和曲もつくりけむツミ達一たるもけ道

み我とみりり

一祝言と事云はうけりともふもをけけいふ

一祝言と事云はうけりともふもをけけいふ

祝曲の代和とすりやけいもがとをんとすり

一悲玄乃下の前祝言の事一もふもをけけいふ

志のも又とすりけりもをけけいふ

一 唐慕乃月、あゝの悲、まよひは切つらうと、ちとす
いふ、も人よ、うらみも、いづらん、切なるを、まよひて、な
まよ、曲と、ちとす、まよふ、ふの、二、字、よ、こ
こ、よ、し、あ、

一 襄陽の事、まよひ、あゝ、余、信、と、は、く、こ、を、ま、え
まよ、の、あ、まよ、つ、り、も、あ、こ、の、あ、まよ、ふ、
一、まよ、り、よ、ん、と、い、い、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、
流、信、つ、ま、い、て、ま、よ、く、て、あ、ん、と、ま、よ、あ、い、ぬ

一、まよ、ふ、と、ま、い、て、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、
一、まよ、り、よ、ん、と、い、い、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、ふ、と、ま、い、て、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、り、よ、ん、と、い、い、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、ふ、と、ま、い、て、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、り、よ、ん、と、い、い、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、ふ、と、ま、い、て、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、り、よ、ん、と、い、い、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、ふ、と、ま、い、て、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、り、よ、ん、と、い、い、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

一、まよ、ふ、と、ま、い、て、あ、ま、い、ら、ん、ま、え、ん、ま、い、

たぐひなきも... 道のくま... 但しよ...

一字... 一字... 一字... 一字... 一字...

一字... 一字... 一字... 一字...

別... 道... 爲... 運... 種... 人... 主... 道... 出...

云... 九... 系... 係... こと... かん... せ... り... こと... 又... 混... 純... 像... ず...

く... じ... ぶ... ち...

一... た... げ... へ... の... の... 交... せ...

一... 花... の... うち... け... う... け... い... も... 又... 林... の... 蜂... 乃... 吟... ね... を... 亭... 上... 中...

一... 下... 又... を... 下... げ... 上... を... 云... 同... 亦... の... 行... 交... に... け... ら... は... 何... 月... 也...

三... 乃... の... と... 云... 人... ぬ... け...

一... 五... 字... は... 何... り... と... 云... な... り... 三... 年... 年... 引... 花... を... 交... る... の... 海... と... 風...

も... 何... 月... 也...

一... 三... ツ... 字... は... 何... り... と... 云... な... り... 三... 年... 年... 引... 花... を... 交... る... の... 海... と... 風...

ちまうそしちね さいしん
わくけいしう 一版とせんこうあり 第一うし
ていめいよく移るくやま下と書けり
らまとい二版分れせく一音成れり
くふふふ 四音のなほちまうそしちね
あうそ入てらる

一向くしんばつ統のふ
二まより ちまうそと たちま統のそま
一うしちまうそ ちまうそと 一音成れり

カを入りてはくそまうそ

一入と云ふはまうそとて連なり 花は紅葉

一 月雪のちまうそ二ま入く 又二ま三まあも入く

一 せりりまうそとては 音聲のいれつるやうのち

一 うまうそ又二まうそとてくつはくちあり ぼんぼり

ト ちまうそ *Phonetic* のちまうそとて

一 ちまうそとてはくそまうそとて

一 ちまうそとてはくそまうそとて 二まの月

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
一まじりと云ふまじりては注ろり弄よ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ
いづれも書身よなぬつては三ツの草本とをいふ

天正十八年十月十日
世阿弥互判
作田金春為又殿

一 中入の位やういふしりいふをいふ
 一 曲舞の内さういふをいふ
 一 色をさういふをいふ
 一 中入の位やういふしりいふをいふ
 一 曲舞の内さういふをいふ
 一 色をさういふをいふ

一 中入の位やういふしりいふをいふ
 一 曲舞の内さういふをいふ
 一 色をさういふをいふ
 一 中入の位やういふしりいふをいふ
 一 曲舞の内さういふをいふ
 一 色をさういふをいふ

混沌懐中抄

九牛の一毛大海の一滴なりといふも伊勢かの七雲の袖
かを月を尾より日勝も漢涼も秋ふちれたるへん
ひんまうとこと云え文のきこえ信事と深み云三三三
四聖乃りり一不先せざる者往來娑婆八千度云々
まゝいゝ意妙理と成道云々又佛滅して後
云伊三光七道と云蛇も今ひ奪奪も大般若文
得より雪山童子言乃乃大を例て鬼口も身命と
扱はば是を思ぬと力は一如也成傳心乃佛法なり

命を借り候人多かりと云一なり崑崙宮流を
我の似て由り一因來の良草も毒をも益に
馬も例ていひてぬりてりもこと云安れ一徳は
常幸の習も如斯音も例て云此空用といひ
いとも事し徳も云々として移りて爲の水
入るといひは拾余字我習と并て二入又余も一
之実より我及び可行也物持たる云傳抄は
伝道はり不及抄法は前宛抄に徳は我末流の徳
管之實也といひ一願一人は可相傳者や

一 妻は不交言孫余腹心の者一と根をや 口傳

一 節十二丁乃乃一 口傳

一 五音相通并くく之の交 口傳

一 幸も天祝云 災天長傷乃事

一 初上 乃りともはきぬ岩ほのよつつ

一 戸の障よ都合よ一とつり

一 障ぬ 幾まそと色かきりうくさう行

一 万障し吹と一

一 縁詠 ユラ 詠り忘れ奏くきと爲方

一 雲乃通下たてて

一 一のこくそふまりりや

一 天よ久くと比ふひく

い 歌録のうととと

一 二字軍 万障の席た初のを二字の詠

一 二字漢の事 湯ふれとふ人とも

ふのうらもい

一 尺のこといひて余乃字三川はととそそのこなつて初

一久世の月のるら 一まは一夜の契りたよ

一季書 ハナトキ かりと 一りやの

右三文字に引多無をくはゆは二説也 中ノリモテウ

なまらととりにしれだん但初ノ字ニ切ニリニ

め初ヨリかふるニ字ありて程合し極く

一更引乃山下あたたまはのまゆかをほりぬら

今心をもりたせむら恨もゆえまきし中石をほ

とれちりらひのそりゆきとれんものか(ふはの

一滴の露よりかきり山にまふあてあてまはま全ま

あ代とる 千世本の風をそふとて物をもほすも

あまはきりへてまよれせと種らんをも茶やく

伏見乃里久世は天照まき目もけいりきりかの

回ゆりまてんへしんてえりてあかかきりまきや

一假名遺文ニ字通ヲ知ル事

いわいれをもしええへ

わてむりふすうくこ

右ノ文字云々ハ次也

はわ通 ハハ へ ハハ

横祠通

東春次調角青木（此は春の調子）

南夏黃鐘徵赤火（此は夏の調子）

中央土用一越宮黃土（此は中央の調子）

西秋平調高白金（此は秋の調子）

北冬盤涉羽黑水（此は冬の調子）

呂陽天宮高男祝

律陸地角徵羽女愁



石見証體（此は石見の証體）是本來之面目也故曰原佛

法之根源（此は法の根源）處雖有無之（此は處雖有無之）二非辨知雲然曰

詭五音ト云一アリ是五行で五音之極意

乱曲ト云一音互々此乱ノ字ニ字在ラ一ツ

乱又一ツニ蘭是蘭之心深ト更也蘭ト云

文字ハ長登ト讀リ去程是得道之

所也道コソ草不圃土悉皆成佛ト云

王ヲ云云是為万法一如一ツ不足友者

互々同曰是如何ト云ニ蘭ヲ截断而見

正妄夏目前ダリ偽コソ本來之一物是了

卷五 章 叔未元傳

阿依表 杜次元新

漆 飛 發 勢 次 京

右より左は假名章者識註章句證文
や此章之口傳スルニ隨可墨註と名義然
造音曲所者以ふ名之伊呂波行ヲ可註
也いろは讀ニ惡キヤ云ルニ内之文字ヲ
拾テ活開キスルニはの文字ヲ多トルヘシ

△歌二首ノ和歌いろはの根本

難波津いろはや此をいろはといふは蓋と云ふや此の記

後香山いろはのふしの井の阿とくんとおまふおろ

石二首いろはいろはの記や魚天竺陰陽傳

ヨリいろは父母成ト云ルヤ云程難波津之

者陽後香山ノ奇ニ誌テリ

△石記ニ曰

又いろはト云事是長命也故記テ難波津

ニの後香山ノ奇ノ侍ト云ルヤ云程此二首

ニの記ニ父母成ト云ルヤ加クいろは假名ト云

不世榮之我輩之為極意雖為秘傳往進之以平
他物祿之義也傳致或進之作上不及是也
惟我輩代後一人相傳之混沌懷中之也進傳下
決化感御意上中其泉代、被是涕目之榮
看進之、能不及、不有他又者也

永正三年七月吉日

菅原孝元傳門所友

同、三三三、友

泰全春八節
元安

右一、其、原、不、秘、傳、代、後、保、無、不、用、書、後、一、五、音、在、通、字
右、其、原、不、秘、傳、代、後、保、無、不、用、書、後、一、五、音、在、通、字

永祿元年三月吉日

致知書院
通長

孫内次席助友

末

唐叙

二人雨

拍咏

道成寺

檜垣

鯨

水鳥

誓名野寺

得

苑龍見

舟橋

大社

九世門

八邊

山口

定家

画竹梅

蟬

道明寺

頂羽

小際

安漕

十系

葛城

心草

形政

志契

羽衣

艱老

綾鼓

吳服

熊梅

升筒

土車

柱竹柳

大會

立田

殺生石

青陸芳

朝長

楊貴妃

花月

讀梅

鉢木

梅花

石橋

七張落

大系濟幸

高砂

野文

夕顏

小塩

當麻

鞍馬天白

三輪

杜若

石近

源盛養

蘇太鼓

鳴不動

宋女

巖通

白行

長良

常政

吉野閑

真盛

芭蕉

朝魚

六浦

登

音岩

山姥

船弁衣

紅葉袴

卒都呂

開寺小町

通小町

清重

錦木

春栄

小僧

清経

兼平

乃登

忠則

系清

去風

湯若

音曲秘傳之抄

一唐船下段の樂也 此の思ふことにくに云ふより

長傷の心ゆへにきりいさみ舞う

一道明寺 上川の樂や曲舞のそとよりいさみ思ふ

かろく流しにまらいにち都ようさの舞也

一立田三のりける位でさうりかろくあそび流しに思ふ

ちて舞へるいとまをより舞也

一三輪曲舞上てのくをより代都さきり立田より

早久舞や是の和系代初なりと云より大ッククあり

一二人閑下りの女と思ふるともあつにちろくと淫

舞一曲舞の上より少半ク流つてツレハ太又目と

又れは流舞なり

一 袴垣佐舟の向のなつかうくくくきり葺日かや

一 千尋いりふも都にいふこ童平日お江はらり

一 楊貴妃曲岸芭蕉入夜し葺かろうく

一 鏡石軒かきりふのにおよよ若かきくてといふ

一 子いづれくすやくうこふるききや

一 徳曲岸紅葉将より少早くまわおし任葺日

一 葛城おお都にむえのいづまきりさそや

一 花月小舟おいりまき都ようふつ一まわお都
よほつてうこぬるト

一 啼不動おあつよおはまきりお子あきつる

一 髪も位殺せ不たまり社におまじりうり

一 正なる慈徳文お田佐氏くくくうこふ

一 教よまきこきぬ下うみつくまきりそまきりや

一 秩掃おが海く澄ふる一よよりそややくさ

一 せふよりあきりる一いれその内小お神祇と

一 葉あよりそやし一わ一かれお思のぬいの原よ

一 上にとまよりおに澄ぬ一いれ内うらみんおし

一 采女曲岸園よ芭蕉夜のせまき芭蕉のせそやまき

一 誓死す位詞冬より少るをまじく舞の内も同前や

一 頑政之を業大事や曲舞はにけりおまを位は

又つきるやまをななくりかきあしり

一 杯不おいらは母又やく強むたううては何と神て

と云わぬれ又をくういふ一任存にけり

一 蹴通曲舞はかよも部に三女は曲舞にかえやく

まうれをやくういぬるや

一 程とおいらにもう強く強ぬつ一まうに同かまうし

一 志気位の入強うりおかか強うりまう一は強強し

一 稀花樂上はまうより花樂やまうを合は上は合

一 白領はふりく甲さまりし曲舞か三川なる

一 花飛又位をせはふかえやまうまうてやまうし

一 羽衣曲舞ははらうり女えやまうし舞ははらうり

部にはた舞舞舞舞舞舞舞舞舞舞舞舞舞舞舞

一 不協曲舞大事は強しきり中おんやし位は利

一 長衣あはらうり部はまうし物装一まうし物うり

二 同程ををるし強くうりまうしをるし強

はをるしわ同うり強

はをるしわ同うり強

はをるしわ同うり強

一舟橋ひりにしおの閑てきり位一風入しし閑みきり也

一昔老おの少女やりたり也涼ぬまり閑涼で

一七縁涼まりほまより女又やくおかたし物也

一老政おのにもくはくほくほいまりた魚より女お

ようこいさるうり

一犬社曲舞流はあり少閑よりよましまりきり

とこい神也かきしはやと云いにも閑はかろ

る一樂上匠のうるこり

一後教前神まよりおゆかなく歸し申し位で

一木原御幸おの位并符籠て板少女やきり

一くせのう位玉の并み少女やきり

一異服老去より少女をくうこふり

一う紗くはえちと少女をくうこい舞一

一三益和格かろる西にふり三間程まきこいふで

おの神は注と曲舞を神まよる少女やきり

涼風三つりようこぬし

一八崎位八崎よい名や月よりおまよるおのにもおまよる
下り星よまをより又やくほまきり

一 飯梅佐八為社し月と日次とにどかククヤ

ちやう屋びやしくと云ふにんをなく強しあう

ふんのてことちをうしてと云ふ一早う注し

一 師宮章を凡わがあら穉たりきみし能

はノ章にかさやく章上

一 芭蕉の曲章ににまのくとうをを章を

章の内におしえいと云ふ

一 江口丹をと免てあふをと云ふありまのうよ強し

やも一まのうらふし困意蕉同之を持信のち都信

一 井筒代位をせはりり少を名とうと云ふ少にをく

ま記をとるるし井筒同よいと云ふ少は形へ

一 夕旅井筒ノ佐章の内少部に章を

一 朝白シクふのまのりんとくやく章の強を

一 定孫曲章のあふの心ろりまりのあふりお

一章の内をむりいなり

一 工車一天に海信以打むの也云ふありをレ下

おえあ同信強話やと云ふありのち小強よ強い

而心内小くもいふにたゞ〜まぢり

一 鞆了天狗初信天狗流と云ふに、はぢりく
心持し牛の被りまじりて入るとまぢりかをむして

とや不鼓を車傍同也

一 善言勸了天狗なりと云ふ位に曲舞淫し大へし

シキスル所不鼓静よりて止し余當の時字も女

一 山姥曲舞静よりてふし初めきたは静は淫しは

しとく風入山姥と云わりのさしと淫し塵移りて

と云れぬいさして淫し拍子多しと云ふなり

一 舟并ふと云時荒くいふ時田む〜〜〜と云ふ

田并りより静は淫し舞の同舞は天の位と志川はな

くと云ふ名おこしき心持しきり拍子たかくふも

と云ふにほのうらなり

一 紅葉待曲舞し舞を交りわがをやまきりいさき位子

心持面白かり

一 幸都姫小町流よりちと云ふわりのりく淫し流儀

はり小静は淫し〜と云ふ老くと云ふは淫色

〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ